

「いつ」・「どうやって」逃げるのか—洪水編

洪水により水害が発生すると、あふれた水は道路などを流れて、平野部が浸水します。少しの深さの水位でも、流れがあるとそこを歩くことができなくなります。また、水に浸かっている場所では地面が見えなくなり、水路やマンホールの蓋が開いている場所などでは非常に危険になります。

雨の降り方に注意しましょう

雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
状況	ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。雨の音で話し声がよく聞き取れない。	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づら。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。	滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

避難情報の伝達手段

市は複数の手段により避難情報を市民の皆様にお伝えします。

防災行政無線 屋外のスピーカーを通じて緊急情報などをお知らせします。	広報車 緊急時は、広報車で市内を巡回放送します。	安心安全メール 防災行政無線の放送内容や、その他市からのお知らせなどを配信しています。
緊急速報メールなど 避難指示の発令など緊急度の高い情報を、市内に存在する携帯電話に一斉送信します。	市公式ツイッター 防災行政無線の放送内容や、その他市からのお知らせなどを配信しています。	

警戒レベルと防災 気象情報

警戒レベル	住 民のみなさんが取るべき行動	避難情報(白岡市が発令)	気象庁等の情報	
5	命の危険直ちに安全確保! 既に安全な場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する	緊急安全確保 (必ず発令される情報ではない)	(気象) 大雨特別警報	(河川) 氾濫発生情報

警戒レベル4までに必ず避難!

4	危険な場所から全員避難 速やかに危険な場所から避難先へ避難する 移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難	避難指示	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報
3	高齢の方、障がいのある方など避難に時間を要する者の方は危険な場所から避難し、それ以外の人は、自主的に避難開始	高齢者等避難	大雨・洪水警報	氾濫警戒情報
2	避難に備え、非常持出品の用意や、ハザードマップ等により、避難所、避難経路など自らの避難行動を確認する	—	大雨・洪水注意報	氾濫注意情報
1	最新の気象情報、災害情報、避難情報を収集して、構えを高める	—	早期注意情報(警報級の可能性)	—

※警戒レベルと避難情報、気象情報等の関係は、今後、国が更新する可能性がありますので、最新の情報をチェックするようにしましょう。

最新の情報と周囲の状況から、「今しかない」と判断したときが逃げるときです。

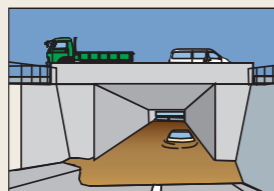
次の点に注意し安全に避難

避難時の危険箇所

路上には、アンダーパス等、いろいろな危険が潜んでいます。特に、次のような危険箇所は注意すべき場所として日頃から確認しておきましょう。

道路冠水注意箇所

車道部がアンダーパス構造となっており、集中豪雨時に冠水する可能性がある箇所では道路が冠水している状況を見つけた場合には、不用意に通行せず、う回するなどの危険回避を最優先で行ってください。



水路の周辺

水路にはガードレールの柵がない場合があります。浸水時には、水路の場所がわからず誤って流される危険があります。



内水氾濫と外水氾濫の違い

雨量の増加によって起こる氾濫には、街中の排水が追いつかず、雨水管などから水があふれ出す「内水氾濫」と、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水氾濫」の2種類があります。

内水氾濫



その場所に降った雨水や、周りから流れ込んで水が処理できずに水があふれてしまいます。川の水位が何mまで来たら警報を出すといった基準がないため、注意が必要です。

外水氾濫



大雨で川の水量が増え、川の水かさが増して堤防を超えたり、堤防が決壊させて川の水が外に流れ出してしまう。氾濫が起きると急激に水位が上がるため、最大の注意が必要です。